



## EIGRP の設定

---

- [EIGRP に関する情報](#) (1 ページ)
- [EIGRP の設定方法](#) (5 ページ)
- [EIGRP のモニタリングおよびメンテナンス](#) (12 ページ)
- [EIGRP の機能情報](#) (13 ページ)

## EIGRP に関する情報

EIGRP は IGRP のシスコ独自の拡張バージョンです。EIGRP は IGRP と同じディスタンスベクトルアルゴリズムおよび距離情報を使用しますが、EIGRP では収束性および動作効率が大幅に改善されています。

コンバージェンステクノロジーには、拡散更新アルゴリズム (DUAL) と呼ばれるアルゴリズムが採用されています。DUAL を使用すると、ルート計算の各段階でループが発生しなくなり、トポロジの変更に関連するすべてのデバイスを同時に同期できます。トポロジ変更の影響を受けないルータは、再計算に含まれません。

IP EIGRP を導入すると、ネットワークの幅が広がります。RIP の場合、ネットワークの最大幅は 15 ホップです。EIGRP メトリックは数千ホップをサポートするほど大きいので、ネットワークを拡張するときの問題となるのは、トランスポートレイヤのホップカウンタだけです。IP パケットが 15 台のルータを経由し、宛先方向のネクストホップが EIGRP によって取得されている場合だけ、EIGRP は転送制御フィールドの値を増やします。RIP ルートを宛先へのネクストホップとして使用する場合、転送制御フィールドでは、通常どおり値が増加します。

## EIGRP の機能

EIGRP には次の機能があります。

- 高速コンバージェンス
- 差分更新：宛先のステータスが変更された場合、ルーティングテーブルの内容全体を送信する代わりに差分更新を行い、EIGRP パケットに必要な帯域幅を最小化します。
- 低い CPU 使用率：完全更新パケットを受信ごとに処理する必要がないため、CPU 使用率が低下します。

- プロトコルに依存しないネイバー探索メカニズム：このメカニズムを使用し隣接ルータに関する情報を取得します。
- 可変長サブネット マスク (VLSM)
- 任意のルート集約
- 大規模ネットワークへの対応

## EIGRP コンポーネント

EIGRP には次に示す 4 つの基本コンポーネントがあります。

- **ネイバー探索および回復**：直接接続されたネットワーク上の他のルータに関する情報を動的に取得するために、ルータで使用されるプロセスです。また、ネイバーが到達不能または動作不能になっていることを検出するためにも使用されます。ネイバー探索および回復は、サイズの小さな hello パケットを定期的送信することにより、わずかなオーバーヘッドで実現されます。hello パケットが受信されているかぎり、Cisco ISO ソフトウェアは、ネイバーが有効に機能していると学習します。このように判別された場合、隣接ルータはルーティング情報を交換できます。
- **Reliable Transport Protocol**：EIGRP パケットをすべてのネイバーに確実に、順序どおりに配信します。マルチキャスト パケットとユニキャスト パケットが混在した伝送もサポートされます。EIGRP パケットには確実に送信する必要があるものと、そうでないものがあります。効率化のため、信頼性は必要時にのみ提供されます。たとえば、マルチキャスト機能があるマルチアクセスネットワーク（イーサネットなど）では、すべてのネイバーにそれぞれ hello パケットを確実に送信する必要はありません。そのため、EIGRP は、1 つのマルチキャスト hello を送信し、パケットに確認応答が必要ないという通知をそのパケットに含めます。他のタイプのパケット（アップデートなど）の場合は、確認応答（ACK パケット）を要求します。信頼性の高い伝送であれば、ペンディング中の未確認応答パケットがある場合、マルチキャストパケットを迅速に送信できます。このため、リンク速度が変化する場合でも、コンバージェンス時間を短く保つことができます。
- **DUAL 有限状態マシン**には、すべてのルート計算の決定プロセスが組み込まれており、すべてのネイバーによってアドバタイズされたすべてのルートが追跡されます。DUAL は距離情報（メトリックともいう）を使用して、効率的な、ループのないパスを選択し、さらに DUAL は適切な後継ルータに基づいて、ルーティング テーブルに挿入するルートを選択します。後継ルータは、宛先への最小コスト パス（ルーティング ループに関連しないことが保証されている）を持つ、パケット転送に使用される隣接ルータです。適切な後継ルータが存在しなくても、宛先にアドバタイズするネイバーが存在する場合は再計算が行われ、この結果、新しい後継ルータが決定されます。ルートの再計算に要する時間によって、コンバージェンス時間が変わります。再計算はプロセッサに負荷がかかるため、必要でない場合は、再計算しないようにしてください。トポロジが変更されると、DUAL はフィジブル サクセサの有無を調べます。適切なフィジブル サクセサが存在する場合は、それらを探して使用し、不要な再計算を回避します。
- **プロトコル依存モジュール**は、ネットワーク層プロトコル固有のタスクを実行します。たとえば、IP EIGRP モジュールは、IP でカプセル化された EIGRP パケットを送受信しま

す。また、EIGRP パケットを解析したり、DUAL に受信した新しい情報を通知したりします。EIGRP は DUAL にルーティング決定を行うように要求しますが、結果は IP ルーティングテーブルに格納されます。EIGRP は、他の IP ルーティングプロトコルによって取得したルートの再配信も行います。



---

(注) EIGRP をイネーブルにするには、デバイスまたはアクティブスイッチ上で Network Advantage ライセンスが稼働している必要があります。

---

## EIGRP NSF

デバイス スタックは、次の 2 つのレベルの EIGRP ノンストップ フォワーディングをサポートします。

- EIGRP NSF 認識
- EIGRP NSF 対応

### EIGRP NSF 認識

Network Advantage ライセンスは、EIGRP NSF 認識を IPv4 に対してサポートしています。隣接ルータが NSF 対応である場合、レイヤ 3 デバイスでは、ルータに障害が発生してプライマリ RP がバックアップ RP によって引き継がれる間、または処理を中断せずにソフトウェアアップグレードを行うためにプライマリ RP を手動でリロードしている間、隣接ルータからパケットを転送し続けます。この機能をディセーブルにできません。

### EIGRP NSF 対応

Network Advantage ライセンスは、EIGRP Cisco NSF ルーティングをサポートし、スタックのアクティブスイッチ切り替え後のコンバージェンスの時間短縮と、トラフィック損失低減を実現します。

Network Advantage ライセンスは、EIGRP NSF 対応ルーティングも IPv4 に対してサポートし、アクティブスイッチ切り替え後のコンバージェンス向上と、トラフィック損失低減を実現します。EIGRP NSF 対応のアクティブスイッチが再起動したとき、または新しいアクティブスイッチが起動して NSF が再起動したとき、このデバイスにはネイバーが存在せず、トポロジテーブルは空の状態です。デバイス、デバイススタックに対するトラフィックを中断することなく、インターフェイスの起動、ネイバーの再取得、およびトポロジテーブルとルーティングテーブルの再構築を行う必要があります。EIGRP ピアルータは新しいアクティブスイッチから学習したルートを維持し、NSF の再起動処理の間トラフィックの転送を継続します。

ネイバーによる隣接リセットを防ぐために、新しいアクティブスイッチは EIGRP パケットヘッダーの新しい Restart (RS) ビットを使用して再起動を示します。これを受信したネイバーは、ピアリスト内のスタックと同期を取り、スタックとの隣接関係を維持します。続いてネイバーは、RS ビットがセットされているアクティブスイッチにトポロジテーブルを送信して、自身

が NSF 認識デバイスであることおよび新しいアクティブスイッチを補助していることを示します。

スタックのピアネイバーの少なくとも 1 つが NSF 認識デバイスであれば、アクティブスイッチはアップデート情報を受信してデータベースを再構築します。各 NSF 認識ネイバーは、最後のアップデート パケットに End of Table (EOT) マーカーを付けて送信して、テーブル情報の最後であることを示します。アクティブスイッチは、EOT マーカーを受信したときにコンバージェンスを認識し、続いてアップデートの送信を始めます。アクティブスイッチがネイバーからすべての EOT マーカーを受信した場合、または NSF コンバージェンスタイマーが期限切れになった場合、EIGRP は RIB にコンバージェンスを通知し、すべての NSF 認識ピアにトポロジテーブルをフラッシングします。

## EIGRP スタブルルーティング

EIGRP スタブルルーティング機能は、エンドユーザーの近くにルーテッドトラフィックを移動することでリソースの利用率を低減させます。



- (注) EIGRP タブルルーティング機能は、接続されたルートまたはサマリールートをルーティングテーブルからネットワーク内の別の device へアドバタイズします。device はアクセスレイヤで EIGRP スタブルルーティングを使用することにより、ほかのタイプのルーティングアドバタイズメントの必要性を排除しています。Network Essentials ライセンスが稼働する device 上で、Multi-VRF-CE と EIGRP スタブルルーティングを同時に設定しようとすると、設定は許可されません。IPv6 EIGRP スタブルルーティングは、Network Essentials ライセンスではサポートされません。

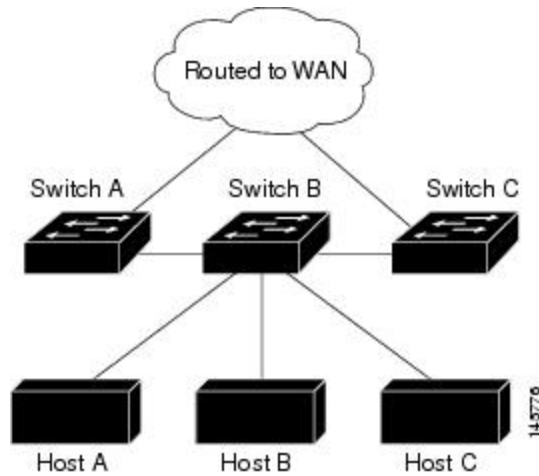
EIGRP スタブルルーティングを使用するネットワークでは、ユーザーに対する IP トラフィックの唯一の許容ルートは、EIGRP スタブルルーティングを設定している device 経由です。device は、ユーザーインターフェイスとして設定されているインターフェイスまたは他のデバイスに接続されているインターフェイスにルーテッドトラフィックを送信します。

EIGRP スタブルルーティングを使用しているときは、EIGRP を使用して device だけをスタブとして設定するように、分散ルータおよびリモートルータを設定する必要があります。指定したルートだけが device から伝播されます。device は、サマリー、接続ルート、およびルーティングアップデートに対するすべてのクエリーに応答します。

スタブルルータの状態を通知するパケットを受信した隣接ルータは、ルートについてはスタブルルータに照会しません。また、スタブピアを持つルータは、そのピアについては照会しません。スタブルルータは、ディストリビューションルータを使用して適切なアップデートをすべてのピアに送信します。

次の図では、device B は EIGRP スタブルルータとして設定されています。デバイス A および C は残りの WAN に接続されています。デバイス B は、接続ルート、スタティックルート、再配布ルート、およびサマリールートをデバイス A とデバイス C にアドバタイズします。スイッチ B は、デバイス A から学習したルートをアドバタイズしません（逆の場合も同様です）。

図 1: EIGRP スタブルータ設定



## EIGRP の設定方法

EIGRP ルーティングプロセスを作成するには、EIGRP をイネーブルにし、ネットワークを関連付ける必要があります。EIGRP は指定されたネットワーク内のインターフェイスにアップデートを送信します。インターフェイスネットワークを指定しないと、どのEIGRPアップデートでもアドバタイズされません。



- (注) ネットワーク上に IGRP 用に設定されているルータがあり、この設定を EIGRP に変更する場合は、IGRP と EIGRP の両方が設定された移行ルータを指定する必要があります。この場合は、この次の項に記載されているステップ 1～3 を実行し、さらに「スプリット ホライゾンの設定」も参照してください。ルートを自動的に再配信するには、同じ AS 番号を使用する必要があります。

## EIGRP のデフォルト設定

表 1: EIGRP のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
自動サマリー	ディセーブル。
デフォルト情報	再配信中は外部ルートが許可され、EIGRP プロセス間でも渡されます。

機能	デフォルト設定
デフォルト メトリック	<p>デフォルトメトリックなしで再配信できるのは、接続されたすべてのインターフェイスのスタティック ルートだけです。デフォルトメトリックは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 帯域幅：0 以上の kb/s</li> <li>• 遅延（10 マイクロ秒）：0 または 39.1 ナノ秒の倍数である数値</li> <li>• 信頼性：0 ～ 255 の任意の数値（255 の場合は信頼性が最も高い）</li> <li>• 負荷：0 ～ 255 の数値で表される有効帯域幅（255 の場合は最も高い負荷）</li> <li>• MTU：バイトで表されたルートの MTU サイズ（0 または 1500 の整数）</li> </ul>
ディスタンス	<p>内部距離：90 外部距離：170</p>
EIGRP の隣接関係変更ログ	ディセーブル。隣接関係の変更はロギングされません。
IP 認証キーチェーン	認証なし
IP 認証モード	認証なし
IP 帯域幅比率	50%
IP hello 間隔	低速非ブロードキャスト マルチアクセス（NBMA）ネットワークの場合：60 秒、それ以外のネットワークの場合：5 秒
IP ホールドタイム	低速 NBMA ネットワークの場合：180 秒、それ以外のネットワークの場合：15 秒
IP スプリットホライズン	イネーブル。
IP サマリー アドレス	サマリー集約アドレスは未定義
メトリック 重み	tos：0、k1 および k3：1、k2、k4、および k5：0
ネットワーク	指定なし
ノンストップ フォワーディング（NSF）認識	Network Advantage ライセンスを実行するスイッチ上で IPv4 ネットワークにイネーブルになっています。レイヤ 3 スイッチでは、ハードウェアの変更中に、隣接する NSF 対応ルータからのパケットを転送し続けることができます。

機能	デフォルト設定
NSF 対応	ディセーブル。 (注) デバイスは EIGRP NSF 対応ルーティングを I ポートします。
オフセットリスト	ディセーブル。
ルータ EIGRP	ディセーブル。
メトリック設定	ルート マップにはメトリック設定なし
トラフィック共有	メトリックの比率に応じて配分
バリエーション	1 (等コスト ロード バランシング)

## 基本的な EIGRP パラメータの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>router eigrp autonomous-system</b> 例： デバイス(config)# <b>router eigrp 10</b>	EIGRP ルーティング プロセスをイネーブルにし、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。AS 番号によって他の EIGRP ルータへのルート を特定し、ルーティング情報をタグ付けします。
ステップ 3	<b>nsf</b> 例： デバイス(config-router)# <b>nsf</b>	(任意) EIGRP NSF をイネーブルにします。アク ティブスイッチとそのすべてのピアでこのコマンド を入力します。
ステップ 4	<b>network network-number</b> 例： デバイス(config-router)# <b>network 192.168.0.0</b>	ネットワークを EIGRP ルーティング プロセスに関 連付けます。EIGRP は指定されたネットワーク内 のインターフェイスにアップデートを送信します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>eigrp log-neighbor-changes</b> 例 : デバイス (config-router) # <b>eigrp log-neighbor-changes</b>	(任意) EIGRP 隣接関係変更のロギングをイネーブルにし、ルーティングシステムの安定性をモニターします。
ステップ 6	<b>metric weights tos k1 k2 k3 k4 k5</b> 例 : デバイス (config-router) # <b>metric weights 0 2 0 2 0 0</b>	(任意) EIGRP メトリックを調整します。デフォルト値はほとんどのネットワークで適切に動作するように入念に設定されていますが、調整することも可能です。 <b>注意</b> メトリックを設定する作業は複雑です。熟練したネットワーク設計者の指導がない場合は、行わないでください。
ステップ 7	<b>offset-list [access-list number   name] {in   out} offset [type number]</b> 例 : デバイス (config-router) # <b>offset-list 21 out 10</b>	(任意) オフセットリストをルーティングメトリックに適用し、EIGRP によって取得したルートへの着信および発信メトリックを増加します。アクセスリストまたはインターフェイスを使用し、オフセットリストを制限できます。
ステップ 8	<b>auto-summary</b> 例 : デバイス (config-router) # <b>auto-summary</b>	(任意) ネットワークレベル ルートへのサブネットルートの自動サマライズをイネーブルにします。
ステップ 9	<b>interface interface-id</b> 例 : デバイス (config-router) # <b>interface gigabitethernet 1/0/1</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 10	<b>ip summary-address eigrp autonomous-system-number address mask</b> 例 : デバイス (config-if) # <b>ip summary-address eigrp 1 192.168.0.0 255.255.0.0</b>	(任意) サマリー集約を設定します。
ステップ 11	<b>end</b> 例 : デバイス (config-if) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	<b>show ip protocols</b> 例 : デバイス# <code>show ip protocols</code>	入力を確認します。 NSF 認識の場合、出力に次のように表示されます。 *** IP Routing is NSF aware *** EIGRP NSF enabled
ステップ 13	<b>copy running-config startup-config</b> 例 : デバイス# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

## EIGRP インターフェイスの設定

インターフェイスごとに、他の EIGRP パラメータを任意で設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : デバイス# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface interface-id</b> 例 : デバイス (config)# <code>interface gigabitethernet 1/0/1</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 3	<b>ip bandwidth-percent eigrp percent</b> 例 : デバイス (config-if)# <code>ip bandwidth-percent eigrp 60</code>	(任意) インターフェイスで EIGRP が使用できる帯域幅の割合を設定します。デフォルト値は 50% です。
ステップ 4	<b>ip summary-address eigrp autonomous-system-number address mask</b> 例 : デバイス (config-if)# <code>ip summary-address eigrp 109 192.161.0.0 255.255.0.0</code>	(任意) 指定されたインターフェイスのサマリー集約アドレスを設定します (auto-summary がイネーブルの場合は、通常設定する必要はありません)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>ip hello-interval eigrp autonomous-system-number seconds</b> 例 : デバイス(config-if)# ip hello-interval eigrp 109 10	(任意) EIGRP ルーティングプロセスの hello 時間間隔を変更します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 秒です。低速 NBMA ネットワークの場合のデフォルト値は 60 秒、その他のすべてのネットワークでは 5 秒です。
ステップ 6	<b>ip hold-time eigrp autonomous-system-number seconds</b> 例 : デバイス(config-if)# ip hold-time eigrp 109 40	(任意) EIGRP ルーティングプロセスのホールド時間間隔を変更します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 秒です。低速 NBMA ネットワークの場合のデフォルト値は 180 秒、その他のすべてのネットワークでは 15 秒です。 <b>注意</b> ホールドタイムを調整する前に、シスコのテクニカルサポートにお問い合わせください。
ステップ 7	<b>no ip split-horizon eigrp autonomous-system-number</b> 例 : デバイス(config-if)# no ip split-horizon eigrp 109	(任意) スプリット ホライズンをディセーブルにし、ルート情報が情報元インターフェイスからルータによってアドバタイズされるようにします。
ステップ 8	<b>end</b> 例 : デバイス(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<b>show ip eigrp interface</b> 例 : デバイス# show ip eigrp interface	EIGRP がアクティブであるインターフェイス、およびそれらのインターフェイスに関連する EIGRP の情報を表示します。
ステップ 10	<b>copy running-config startup-config</b> 例 : デバイス# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## EIGRP ルート認証の設定

EIGRP ルート認証を行うと、EIGRP ルーティングプロトコルからのルーティングアップデートに関する MD5 認証が可能になり、承認されていない送信元から無許可または問題のあるルーティングメッセージを受け取ることがなくなります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例：  デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface interface-id</b> 例：  デバイス(config)# <b>interface gigabitethernet 1/0/1</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ3インターフェイスを指定します。
ステップ 3	<b>ip authentication mode eigrp autonomous-systemmd5</b> 例：  デバイス(config-if)# <b>ip authentication mode eigrp 104 md5</b>	IP EIGRP パケットの MD5 認証をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>ip authentication key-chain eigrp autonomous-system key-chain</b> 例：  デバイス(config-if)# <b>ip authentication key-chain eigrp 105 chain1</b>	IP EIGRP パケットの認証をイネーブルにします。
ステップ 5	<b>exit</b> 例：  デバイス(config-if)# <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>key chain name-of-chain</b> 例：  デバイス(config)# <b>key chain chain1</b>	キーチェーンを識別し、キーチェーンコンフィギュレーションモードを開始します。ステップ 4 で設定した名前を指定します。
ステップ 7	<b>key number</b> 例：  デバイス(config-keychain)# <b>key 1</b>	キーチェーン コンフィギュレーション モードで、キー番号を識別します。
ステップ 8	<b>key-string text</b> 例：  デバイス(config-keychain-key)# <b>key-string key1</b>	キーチェーン コンフィギュレーション モードで、キー スtring を識別します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>accept-lifetime</b> <i>start-time</i> { <b>infinite</b>   <i>end-time</i>   <b>duration</b> <i>seconds</i> } 例： デバイス (config-keychain-key)# <b>accept-lifetime</b> 13:30:00 Jan 25 2011 <b>duration</b> 7200	(任意) キーを受信できる期間を指定します。 <i>start-time</i> および <i>end-time</i> 構文には、 <i>hh:mm:ss Month date year</i> または <i>hh:mm:ss date Month year</i> のいずれかを使用できます。デフォルトは、デフォルトの <i>start-time</i> 以降、無制限です。指定できる最初の日付は 1993 年 1 月 1 日です。デフォルトの <i>end-time</i> および <b>duration</b> は <b>infinite</b> です。
ステップ 10	<b>send-lifetime</b> <i>start-time</i> { <b>infinite</b>   <i>end-time</i>   <b>duration</b> <i>seconds</i> } 例： デバイス (config-keychain-key)# <b>send-lifetime</b> 14:00:00 Jan 25 2011 <b>duration</b> 3600	(任意) キーを送信できる期間を指定します。 <i>start-time</i> および <i>end-time</i> 構文には、 <i>hh:mm:ss Month date year</i> または <i>hh:mm:ss date Month year</i> のいずれかを使用できます。デフォルトは、デフォルトの <i>start-time</i> 以降、無制限です。指定できる最初の日付は 1993 年 1 月 1 日です。デフォルトの <i>end-time</i> および <b>duration</b> は <b>infinite</b> です。
ステップ 11	<b>end</b> 例： デバイス (config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	<b>show key chain</b> 例： デバイス# <b>show key chain</b>	認証キーの情報を表示します。
ステップ 13	<b>copy running-config startup-config</b> 例： デバイス# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## EIGRP のモニタリングおよびメンテナンス

ネイバー テーブルからネイバーを削除できます。さらに、各種 EIGRP ルーティング統計情報を表示することもできます。下の図に、ネイバーを削除し、統計情報を表示する特権 EXEC コマンドを示します。

表 2: IP EIGRP の **clear** および **show** コマンド

<b>clear ip eigrp neighbors</b> [ <i>if-address</i>   <i>interface</i> ]	ネイバー テーブルからネイバ
--	----------------

<code>show ip eigrp interface [interface] [as number]</code>	EIGRP に設定されているイ
<code>show ip eigrp neighbors [type-number]</code>	EIGRP によって検出された
<code>show ip eigrp topology [autonomous-system-number]   [[ip-address] mask]</code>	指定されたプロセスの EIG
<code>show ip eigrp traffic [autonomous-system-number]</code>	すべてまたは指定された E ます。

## EIGRP の機能情報

表 3: EIGRP の機能情報

機能名	リリース	機能情報
EIGRP (Enhanced IGRP)	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	この機能が導入されました。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。